

2007. 3. 29 第24号



地域づくりコミュニケーション  
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◆ 目次 ◆◆

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育むために

◇オーライ！ニッポン大賞の紹介

◇第6回むらの伝統文化顕彰の選賞について

◇平成18年度「立ち上がる農山漁村」選定事例の紹介（その2）

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇棚田を活かした美の里づくり

～北庄中央棚田天然米生産組合（岡山県）

◇バイオマスタウン構想の策定

～沖縄県うるま市・宮古島市～

◇農業塾 塾生募集

～風・水・土を知り、自然を守り育む百姓を目指して～

■ 報告・お知らせ

◇第4回オーライ！ニッポン全国大会が開催されました！

◇農村景観応援団による現地意見交換会が開催されました！

■ 農村振興局各課の紹介

◇地域整備課を紹介します！

◇防災課を紹介します！

\*\*\*\*\*

■ 美しい農村を守り育むために  
◇オーライ！ニッポン大賞の紹介

「オーライ！ニッポン大賞」とは、全国の都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取り組みを表彰し、もって国民への新たなライフスタイルの普及定着を図ることを目的として、オーライ！ニッポン会議、農林水産省ほかの主催で実施し、今年度で4回目になります。

本年度は、長崎県北松浦半島地域において、体験型観光「松浦党の里ほんなもん体験」を展開している。「特定非営利活動法人体験観光ネットワーク松浦党」及び「松浦体験型旅行協会」がグランプリ（内閣総理大臣賞）を受賞しました。

グランプリ受賞者の詳しい概要及び他のオーライ！ニッポン大賞の受賞地区等については、農林水産省のプレスリリース及び農村政策課 都市農業・地域交流室のサイトに掲載しておりますので、ご覧ください。

○オーライ！ニッポン大賞、審査委員長賞、ライフスタイル賞の各賞の選賞に関するプレスリリース。

[http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070208press\\_1.html](http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070208press_1.html)

○オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）の決定に関するプレスリリース

[http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070302press\\_2.html](http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070302press_2.html)

○農村政策課 都市農業・地域交流室のページ

<http://www.maff.go.jp/nouson/chiiki/gt/2oraitaisyo.html>

○オーライ！ニッポン大賞に関する情報はこのほかに、オーライ！ニッポンのウェブサイトでもご覧頂けます。

<http://www.kyosei-tairyu.jp/>

（農村政策課都市農業・地域交流室）

\*\*\*\*\*

◇第6回むらの伝統文化顕彰の選賞について

「むらの伝統文化顕彰」は、農山漁村の自然と歴史から生まれ、暮らしの中で受け継がれてきた風俗習慣、芸能、行事そして技など、その維持・継承・活用において積極的に取り組んでいる方々、また農山漁村の営みや暮らしにかかわる貴重な技術を活かし今に伝えている方々などを顕彰しこれを広く発信することで、全国の伝統文化の維持継承と農山漁村の活性化に資することを目的に実施しているものです。

今年度は、全国から52件の応募があり、2月に開催された審査委員会（座長：守友裕一 宇都宮大学教授）において、農林水産大臣賞（1件）、農林水産省農村振興局長賞（2件）及び（財）都市農山漁村交流活性化機構理事長賞（3件）が決定しました。

なお表彰式は、3月14日に開催された「第4回オーライ！ニッポン全国大会」において、盛大に執り行われました。

○受賞者の概要等については、こちらをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070228press\\_2.html](http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070228press_2.html)

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

#### ◇平成18年度「立ち上がる農山漁村」選定事例の紹介(その2)

1月17日に首相官邸で開催された有識者会議で、平成18年度「立ち上がる農山漁村」50事例が決定されました。今回はその中から福島県いわき市の有限会社とまとランドいわきの取組を紹介します。

有限会社とまとランドいわきでは、平成15年に施設園芸の最先端であるオランダの技術を導入し、有害物質を温室外に排出しない循環式養液栽培温室を建設しました。環境保護を第一に考えた農業経営を行いつつ、年間の日照時間が全国的にもトップクラスといういわき市の気候条件と、コンピュータによる温度・湿度・灌水量の自動制御により、年間収穫量も日本トップクラスとなっています。

また、高齢者や女性が働きやすい環境づくりにより、地域の主婦や高齢者の雇用を確保するとともに、敷地内に直売所を建設し、自社作物以外にも地域農家が利用できる販売スペースを提供することで、多いときには1日に500人を超える来客を呼び込むなど、地域の活性化に貢献しています。

同社では、今後も環境保護を第一に考えながら、化学農薬ではなく微生物の力を利用した生物農薬による害虫防除など、より安心・安全な農作物栽培を継続していくこととしています。

○有限会社とまとランドいわきの取組は次のHPをご覧ください。

<http://www.sunshinetomato.co.jp/>

○「立ち上がる農山漁村」の取組は次のHPをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/tatiagaru/newpage9.htm>

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

#### ■ 地域の実態に応じた多様な取組

##### ◇棚田を生かした美の里づくりの取組

～北庄中央棚田天然米生産組合(岡山県久米南町)

第2回「美の里づくりコンクール」で農林水産省農村振興局長賞を受賞した、北庄中央棚田天然米生産組合を紹介します。

岡山県のほぼ中央に位置する久米南町の北庄中央地区は、すり鉢状の急傾斜地の底から、わずか2a程度の小さな水田が段々と積み重ねられた棚田地域で

す。

北庄中央棚田天然米生産組合は、先人から引き継いだ棚田を生かし、棚田天然米産地の育成を図るために平成6年5月に北庄中央地区の農家35戸の内、24戸の参加を得て発足しました。

しかしながら、棚田での有機低農薬米の栽培は、機械作業が制約されるため重労働が強いられます。そこで、組合員は「都市との交流等により”苦農”から”楽農”へ」を合い言葉に、①棚田ファンクラブの設立②消費者との交流会③田んぼの学校の開校など数々の取組を行いました。

これらの交流は、組合員に棚田の農作業の『やりがい』を創成し、今日まで営農活動が続けられています。その結果、棚田の景観保全、耕作放棄地拡大の抑制などの成果が得られています。

今後の課題は、「高齢化の進行による労働力不足を解決するために、集落営農を推進するとともに、サポート会員（農業支援隊）の募集などさらに交流の輪を広げ、『癒しの里 北庄』を次世代へ引き継ぎたい。」とのことです。

（中国四国農政局 農村振興課）

\*\*\*\*\*

#### ◇バイオマスタウン構想の策定

～沖縄県うるま市・宮古島市～

沖縄県では平成19年3月に、うるま市及び宮古島市においてバイオマスタウン構想が策定されます。

うるま市は沖縄本島中部の東海岸に位置し、沖縄本島から東南に伸びる半島部と、その北に位置する伊計島が海中道路及び橋によって結ばれており、旧4市町（具志川市、石川市、勝連町、与那城町）が合併し平成17年4月1日に誕生しました。うるま市では、家畜排せつ物、生ゴミ、廃食用油等の廃棄物系及び未利用系の地域バイオマス資源の多面的・重層的な利活用促進を図るため、廃棄物系・未利用系・資源作物系の様々なバイオマスを加えた総合的な構想が策定されます。

宮古島市は沖縄本島（那覇）の南西方向約290kmの珊瑚礁に囲まれた宮古島に位置しており、旧5市町（平良市、城辺町、上野村、下地町、伊良部町）が合併し平成17年10月1日に誕生しました。離島に位置する宮古島市は、島内で利用する食料、エネルギー等の多くを島外からの供給に依存している一方で、廃棄物の大部分が島内で焼却処理され、一部廃棄物の処理は島外に依頼しています。宮古島市ではこのことを重要な課題と捉え、家畜排せつ物、さとうきび生産事業関係バイオマス、農産物残さ、廃食用油等の地域バイオマス資源を、宮古島内における循環型社会の形成を図ることにより、エネルギー及び食料の自給率向上が図られます。また、地下水保全及び周辺海域の珊瑚礁保全と島内資源を有効活用した、宮古島市の持続的発展を図った構想が策定されま

す。

両市の策定によって、沖縄県では3地域においてバイオスタウン構想に基づく各種の取組みが行われることとなりますが、バイオエタノールの取組みにおいては先進県でもあり、地域振興にも繋がる活発な取組み及び県内他地域への波及効果が期待されます。

うるま市、宮古島市のHPは次のサイトをご覧ください。

うるま市：<http://www.city.uruma.lg.jp/>

宮古島市：<http://www.city.miyakojima.lg.jp/site/view/index.jsp>  
(沖縄総合事務局土地改良課)

\*\*\*\*\*

#### ◇農業塾 塾生募集

～風・水・土を知り、自然を守り育む百姓を目指して～

一年の稲作農業を通じて自然への理解を深め、地域環境を改善する活動を行う援農者の育成研修を行います。

講座は、農業技術を学ぶ「実践」と農文化や環境を理解する「座学」にて行い、より実践的な農業の達人を目指します。

○と き 5月13日～10月 全8回(他、実践活動もあり)

○ところ 犬山里山学センター及び近隣水田

○参加料 4000円(資料代・通信費等)

○対象 今後、援農活動や農業に関わりたいと考えている方(定員20名)

○申込み 4月30日(月)までに ①名前②生年月日③住所④電話  
⑤メールアドレス⑥受講動機 を以下に連絡。

○問合せ NPO法人 犬山里山学研究所  
電話・FAX 0568-65-2300  
E-mail: satoyama@inuyama.net

○後援 犬山市  
NPO法人グラウンドワーク東海  
NPO法人いぬやまe-コミュニティネットワーク

○犬山里山学研究所のHPは次のサイトをご覧ください。

<http://www.inuyama.net/~satoyama>

(犬山里山学研究所寄稿)

\*\*\*\*\*

#### ■ 報告・お知らせ

◇第4回オーライ!ニッポン全国大会が開催されました!

去る3月14日、イイノホールにおいて、都市と農山漁村の共生・対流を推進し、都市と農山漁村双方の生活・文化を享受する新たなライフスタイルの創

造を通じ、都市と農山漁村の間で「人・もの・情報」の行き来を活発化することで、ゆとりある生活の実現や経済の活性化を図ることを目的とした、「第4回オーライ！ニッポン全国大会」が開催されました。

大会においては、まず、オーライ！ニッポン大賞及び、食アメニティ・コンテスト、むらの伝統文化顕彰、山村カコンクールの表彰が行われ、その後、養老孟司氏、立松和平氏による講演（オーライ・トーク）、栃木県立宇都宮白楊高校による共生・対流の取組の事例発表、及びパネルディスカッションが行われました。

大会の様子は、オーライ！ニッポンのウェブサイトからもご覧頂けます。

<http://www.kyosei-tairyu.jp/>

（農村政策課都市農業・地域交流室）

\*\*\*\*\*

◇農村景観応援団による現地意見交換会が開催されました！

農村景観に強い思いを有する専門家の集まりである「農村景観応援団」が、農林水産省の職員とともに全国の農村へ直接訪問し、美しい村づくりや地域の景観の保全・活用のあり方などについて地元の関係者と意見交換する活動を今月実施しました。

今回の現地意見交換会においては、高齢化による地域づくりの担い手不足への対応や、景観等の地域資源の保全と観光資源としての活用方法など、地域の多様な課題について地元から相談があり、応援団がこれに応える形でアドバイスを行いました。

訪問日程は1地域当たり1日か2日で、実際の現地調査や意見交換の時間は十分なものではありませんでしたが、それでも地元関係者の景観保全に係る熱い思いが応援団に伝えられ、また逆に、応援団からも地域の再発見につながるような的確な指摘がなされ、今後の農村景観への取組を考えていくうえで双方にとって実り多きものとなりました。

今回対象となった地域は以下の5ヶ所で、地元の関係者から応援団の来訪を強く要望されていたところです。この他にも、多くの地域から現地訪問について要望が寄せられており、応援団としても引き続きこのような活動を実施していく予定ですので、皆さんの地域でも是非応援団と一体となって農村景観について考えてみてはいかがでしょうか。

○今回の対象地域と訪問した応援団メンバー

- |            |      |                       |
|------------|------|-----------------------|
| ①北海道富良野市麓郷 | 藤本信義 | 宇都宮大学工学部教授            |
| ②山梨県笛吹市    | 野中和雄 | 財団法人競馬・農林水産情報衛星通信機構会長 |
|            | 宮原育子 | 宮城大学事業構想学部助教授         |
| ③滋賀県東近江市金堂 | 田口敦子 | 多摩美術大学美術学部教授          |

④山口県萩市伏馬 横張 真 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

⑤大分県竹田市久住 山本徳司 農村工学研究所農村環境部景域整備研究室長

○応援団に関するご意見、ご相談はこちら

E-mail / [keikan\\_iken@nm.maff.go.jp](mailto:keikan_iken@nm.maff.go.jp)

○応援団に関する情報についてはこちら

<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/21j/ouendan.pdf>

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

## ■ 農村振興局各課の紹介

◇地域整備課を紹介します！

地域整備課は、農業集落排水施設やバイオマスの利活用に必要な施設整備を担当する集落排水・地域資源循環室、農村の生活環境の改善に向け総合的な整備を行う事業を担当する総合整備事業推進室、中山間総合整備事業に代表される中山間地域等を支援する事業を担当する中山間整備事業推進室の3つの室の他、中山間地域等直接支払制度を担当する直接支払班等により構成されています。

また、平成19年度から本格実施される、地域ぐるみでの効果の高い共同活動と農業者ぐるみでの先進的な営農活動を支援する「農地・水・環境保全向上対策」や、石油などの代替エネルギーとして注目され本格的な導入に向け動き出した「バイオマス関連事業」、農山漁村の居住者・滞在者等を増やす地域の取組を総合的かつ機動的に応援する「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」といった農林水産省全体で取り組んでいる政策にも深く関わっています。

このように地域整備課は“地域に活力を与える”幅広い事業を担当しており、課員一同、力を合わせ明るく元気に業務に取り組んでおりますので、皆様のご支援、ご協力を宜しく申し上げます。

(地域整備課)

\*\*\*\*\*

◇防災課を紹介します！

防災課では、自然及び社会的環境の変化に対処して、農用地・農業用施設の原因災害を未然に防止するため、老朽ため池の改修、湛水被害や地盤沈下の防止、地すべり地帯における地すべりの防止、高潮や侵食から守る海岸保全施設の整備など農村地域の安心・安全な生活を確保するための事業を実施しています。また、ひとたび災害が発生した場合は、農地・農業用施設、地すべり防止施設、海岸保全施設などの災害復旧及びこれに関連した事業を実施しています。

今後とも、災害を起こさないための施設整備（ハード整備）は必要ですが、一方で、災害がある程度起きることを想定し、その災害を最小限に食い止めるための対策も重要になってきています。

このため、従来からのハード整備に加え、地域住民の防災意識啓発活動やハザードマップの作成支援、防災情報網の整備、日常的な施設点検や災害発生時の人的支援体制の確立等ソフト対策にも力を入れていきます。

地域の防災力向上は、自助・共助・公助のバランスのとれた対策が必要です。

防災課としては、このような取り組みを支援していきたいと考えています。

防災課所管の施策・制度は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/nouson/bousai/menu.htm>

(防災課)

\*\*\*\*\*

#### ◆◆ 編集後記 ◆◆

先日、田舎の母から大量の“ヨモギ餅”が送られてきました。私の田舎では彼岸の中日に“ヨモギ餅”を作るのが昔からの風習となっています。見た目は直径10センチ近い巨大な草餅で、まさしく田舎の食べ物というイメージですが、ヨモギの香りとつぶ餡の絶妙な甘さがマッチし、子ども達はもちろんのこと、お裾分けした隣近所でも好評でした。

最近、忙しく田舎に帰ることが少なかったのですが、田舎の懐かしい味と一足早い春の香りを同時に感じた瞬間でした。

\*\*\*\*\*

#### ◆◆ ご意見をお寄せ下さい ◆◆

本メールマガジンに対する皆さまの声をご遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

また、読者の輪を更に広げていきたいと考えていますので、皆さまにおいて本メールマガジンに関心を持っていただけそうな方をご存じでしたら、どしどしご紹介いただきますようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

#### ■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局企画部農村政策課（担当）佐藤

TEL:03-3502-5946 FAX:03-3595-6340 mail:mailto:nouson\_mm@nm.maff.go.jp

\*\*\*\*\*